

生物研究

第 XVII 卷 第 3・4 号

1973

(終卷記念号)

THE LIFE STUDY

Vol. XVII, Nos. 3・4

(Final Issue)

December 25, 1973

FUKUI, JAPAN

目 次

報 文

台湾産アナバチ科の研究 (XV) (英文)	常 木 勝 次 ... (39)
マメギングチバチの習性	田 本 正 ... (50)
樹脂を使用するキユビギングチバチの習性	南 部 敏 明 ... (55)
トゲアシギングチバチについての観察	山 田 晴 昭 ... (61)
カヤの筒に造られたヒメコシボソバチ類の巢 (英文)	常 前 勝 次 ... (63)
トモンハナバチの巢の1例	木 田 泰 生 ... (74)
ニッポンシガバチモドキの巢	田 本 正 ... (77)
フタモンアシナガバチの多雌制巢例の発見 (英文)	山 根 正 氣 ... (79)
スズメバチ属ハチ類のコロニー内の分業。III, 外役活動	松 浦 誠 ... (81)
奄美群島の蜂類	室 田 忠 男 ... (100)
常木教授採集朝鮮産ハチ類の蜂類 (英文)	富 樫 次 ... (103)
アナバチ科2種の学名変更 (英文)	常 木 勝 次 ... (113)
1972年台湾で採集した蜂類	室 田 忠 男 ... (115)
山梨県のアナバチ科 (第1報)	須 田 博 久 ... (121)
有刺類の行動等について	官 野 正 雄 ... (125)
日野山のソボツスガリの巢	常 木 勝 次 ... (127)
カギバラバチ類の採集	常 木 勝 次 ... (128)

採 集 行

山梨県ハチ類採集コース	須 田 博 久 ... (131)
-------------------	-------------------

研 究 手 引

蜂類研究手引 (32), 日本産キマグラハナバチ属	常 木 勝 次 ... (135)
---------------------------------	-------------------

短 報

銀口蜂関係学名変更 (49)。筒巢に寄生したヒメバチ (49)。ウスギギングチ福井県から初記録 (54)。シガバチモドキ検索表の訂正 (54)。日本産シガバチモドキへの追加 (54)。キユビギングチ福井県第2の記録。岩手・秋田県で採集したアナバチ科 (76, 南部)。ガロアシギングチとニッコウギングチ (77, 78)。モウソウタマオナガゴバチの習性 (99, 富樫)。マルバツツハナバチの巢 (112)。サッポロシガバチモドキを福井県で発見 (113)。スマスハムシドロバチの巢 (114)。ツマアカツチバチを福井県で採集 (120)。フジシガバチの福井県内新産地 (120)。スギハラギングチについて (126)。オタネギングチについて (130)。エゾマエダテの学名変更 (134)。トゲアシギングチについて (150)。シガバチモドキの獲物 (150)。埼玉県のアナバチ科 (150, 南部)。フタジスズバチの巢 (150)。

CONTENTS

K. Tsuneki: Studies on the Formosan Sphecidae (XV)	(39)
T. Tano: Nesting biology of <i>Entomognathus brevis</i> Linden observed in Japan	(50)
T. Nambu: Biology of <i>Crossocerus (Towada) flavitarsus</i> Tsuneki, using resin to close the nest entrance	(55)
H. Yamada: Some observations on nesting habits of <i>Crossocerus denticrus</i> H.-S.	(61)
K. Tsuneki: Nests of some Pemphredonine wasps in the pith of <i>Miscanthus</i>	(63)
Y. Maeta: A nest of <i>Antidium septemspinorum</i> Lep.	(74)
T. Tano: A nest of <i>Trypoxylon nipponicum</i> Tsuneki	(77)
S. Yamane: Discovery of a pleometrotic association in <i>Polistes chinensis antennalis</i> Per.	(79)
M. Matsuura: Intracolony polyethism in <i>Vespa</i> . III. Foraging activities	(81)
T. Murota: Some aculeate Hymenoptera collected in the Amami group of the Ryukyus	(100)
I. Togashi: Tenthredinoidea of Korea collected by Prof. K. Tsuneki in 1941-43	(103)
K. Tsuneki: Taxonomic notes on two species of Sphecidae	(113)
T. Murota: Sphecidae, Mutillidae, Scoliididae and Chrysididae collected in Formosa in 1972	(115)
H. Suda: Sphecidae of Yananashi Pref., Japan	(121)
K. Tsuneki: A nest of <i>Cerceris sobo</i> on Mt. Hino, Fukui	(127)
K. Tsuneki: On Trigonalidae of Japan	(128)
K. Tsuneki: A guide to the study of the Japanese Hymenoptera (32). The genus <i>Nomada</i> Scopoli	(135)



Fig. 1 The entrance of nest of *Cr. denticrus* Her.-Schaef.

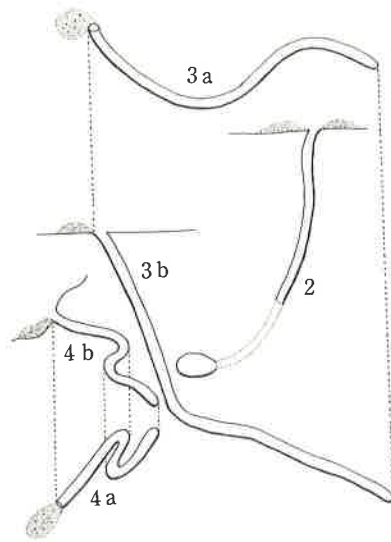


Fig. 2-4 Nests of *Cr. denticrus* Her.-Schaef.
3a, 4a,dorsal view
2, 3b, 4b,lateral view

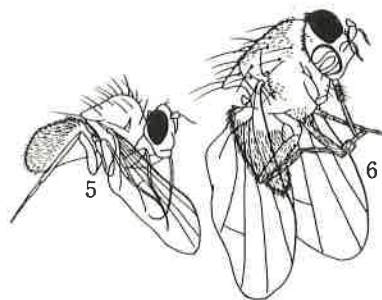


Fig. 5-6 The prey of *Cr. denticrus* Her.-Schaef.
5Dolichopodidae
6Lauxiniidae

た (Fig. 3)。

観察Ⅲ. 6月19日 (1971) 午後4時30分頃, 地面の窪みに蜂が入るのを発見した。そこには建物の陰で, やや湿気を帯びてはいるが雑草の生えていない場所である。午後5時頃には巣穴にはすでに土が内側より詰められており, 抗道を調べてみると土塊の間をぬうようにして, かなり湾曲し, 斜め下方へ続いており, 巣口から約3cmの所に蜂がいたがすぐに飛び去った。抗道はその直下で切れており, その周囲には室は観察されなかった (Fig. 4)。

要 約

1) 造巣場所・巣の構造: 観察された巣は全て, 比較的固い, 又, 湿った地中に作られる。巣口の周囲又は片側に掘り出された土砂の堆積が常に見られ抗道は土質の均一な場所では, 初め急な傾斜で, 下方に行くに従って, 順次ゆるやかになり, 土質の不均一な場所では, 土塊等をさけ, その間をぬうようにして掘っている。

2) Prey: 室に貯蔵されていた Prey は双翅目で, 1頭はシマバエ科 Lauxiniidae の *Homoneura* sp., 2頭はアシナガバエ科 Dolichopodidae に属するものであった。(ハエは岡留恒丸先生に調べて頂いた)

3) その他: 本種は外出時には巣口に仮閉鎖は行わず開放的であり, その為, 巣に帰ってきた蜂は直接, 巢中へ飛び込むようにして入り, 巣に何らかの異変が生じた場合, 巣の確認の為の定位飛行を行う。

キュビギングチ福井県第2の記録

1♂, 鳩が湯上の山地, 17.VIII.1973. *Crossocerus* (*Towada*) *flavitarisus* は北海道, 青森, 栃木, 埼玉, 福井および広島から採れているが, 各地とも数少ない珍しいハチである。福井県では田植正さんが夜叉が池近くで採集した唯一の記録があるだけだが, 上記のように採れた。場所は鳩が湯の少し上手の山道で, 羽田さんがチュウゼンジギングチを見つけた例の壊れ小屋である。小屋は雪のため, ほとんどベシャンコになり, ハチはほんの少ししか任んでいなかったが, そこへ飛来した中にこのハチがいたわけである。(常木)